

豊予海峡周辺海域におけるマアジの資源生態に関する研究

水産研究部 栽培資源チーム

1. 研究の背景

豊予海峡周辺海域では、マアジは複数の漁法で漁獲され漁業者にとって重要な魚種のため、漁法毎の資源管理が必要なことから、同海域におけるマアジの資源生態などの科学的な知見が関係漁業者から強く求められている。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

○マアジ卵の査定方法の確立

従来困難であったホルマリン固定した卵の標本から、形態的特徴によりマアジ卵を査定する方法を確立した。

○豊予海峡周辺海域におけるマアジ卵の出現状況とマアジ小型個体のふ化月の推定

調査船「豊洋」で採集した卵稚仔調査の標本を査定した結果、大分県沿岸海域のマアジの主産卵場は豊予海峡周辺で産卵期は4～6月であった。

津久見湾の定置網で漁獲されるマアジ小型個体の耳石の日齢査定による推定ふ化月は4～6月であった。

→マアジ卵の出現期間とマアジ小型個体の推定ふ化月は概ね一致することから、豊予海峡で生まれたマアジ卵が大分県沿岸のマアジ資源に寄与している可能性が示唆された。

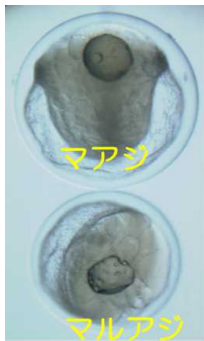


写真1. マアジ卵とマルアジ卵

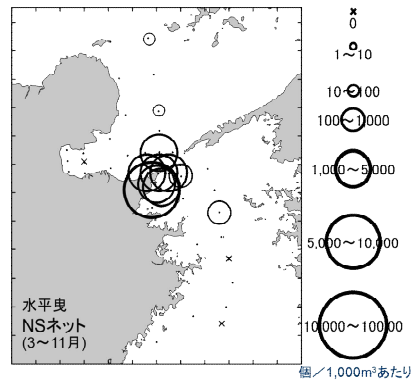


図1. マアジ卵出現場所

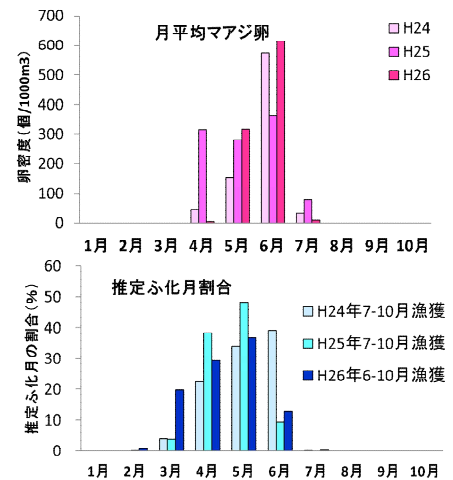


図2. マアジ卵の出現状況とマアジ小型個体推定ふ化月

3. 期待される効果

資源管理手法の提案として、マアジ産卵親魚を保護し産卵量を確保するため、水産研究部のデータを基に「佐賀関一本釣りとは津まき網の漁業者間の休漁日協定」について協議が行われ、漁業者間で納得した円満な操業が継続される。

4. 担当機関連絡先

水産研究部 栽培資源チーム

TEL：0972-32-2155

住所：大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6